

## びわこ学園シンボルについて

### 1. びわこ学園概要

びわこ学園は昭和 38 年に西日本で初めて重症心身障害児の入所施設として発足した。これまでてんかんなど医療的な治療を継続して必要としながら、知的身体的に重度の障害がある子どもに対して、医師、看護師、生活支援員等の職員が支援を行ってきた。

現在は、学園医療福祉センター草津・野洲（長期入所、短期入所、入院、外来診療等）を中心に、生活介護、訪問介護、居宅介護、相談支援、グループホーム等の様々な重症心身障害児・者※の生活を支援する事業を展開している。医療福祉センター草津では、障害児の在宅への移行支援、訪問看護事業所では、幼児期の児童発達支援事業や放課後等デイサービス事業などを行っている。

※現在入所されている利用者の平均年齢は草津：46.6 歳、野洲は 51.2 歳と中年期以降の方が大多数を占めている。

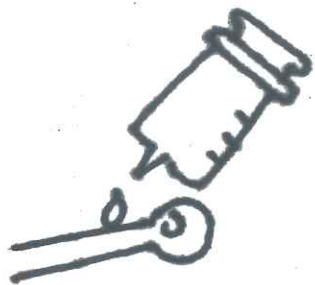
### 2. シンボルについて

びわこ学園では、約 30 年前から、障害が重く言葉を持たない利用者の思いや願いを聞き取るため、代替コミュニケーション手段としてシンボルが使われてきた。シンボルはすべて職員の手書きで作られており、医療的ケア、生活、活動、余暇、行事から体の部位や気持ちを表すものまで多種多様にある。

利用者によって提示の仕方は違っているが、例えば、「祭り」のシンボルを提示した後に「屋台」や「餅つき」などの具体的なイメージが伝わる写真を見せ、夏祭り、学園祭、年末のお楽しみなど幾つかある行事のうち、どれを意味するかが分かるように工夫している。

作成当時はシンボルを学習する活動があり、利用者と共に職員も学び知る場があった。現在そういった活動はしておらず、使用に関しても一部の活動や利用者限定されてきている。

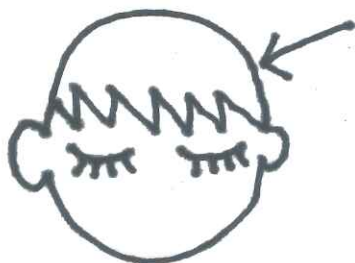
- 今回ご紹介したシンボル（統一シンボルと言われている）はセンター野洲のみで使われている「健康・日常・表情」の三つ。



採血



体重測定



あたま



め



みみ



て



おれり



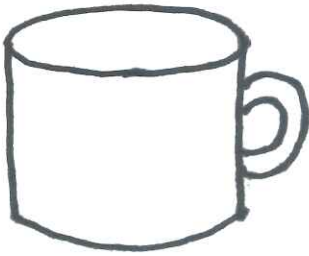
せなか



こうい



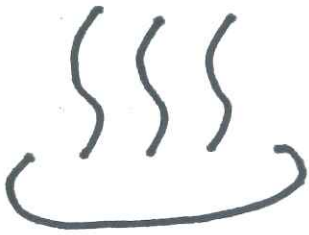
はみがき



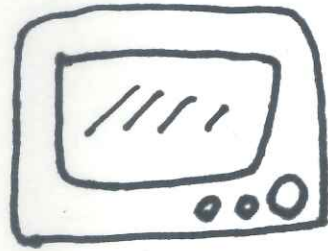
お茶



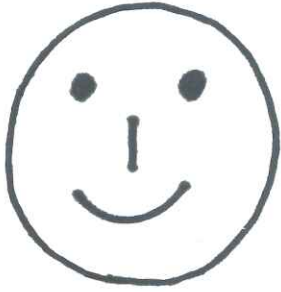
ティータイム



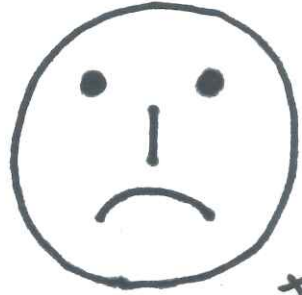
お風呂



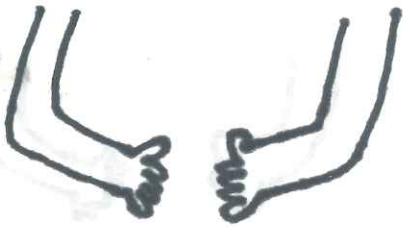
テレビ



たき



きらい



つくろ



まって



はい



いいえ

